

## 乳幼児期における自己および他者理解の発達(2)

### —母子相互作用における互惠性および母親の介入度との関連—

○坂上裕子（東京大学）・保崎路子（お茶の水女子大学）・常田秀子（東洋大学）  
遠藤利彦（聖心女子大学）・無藤隆（お茶の水女子大学）

#### 【問題と目的】

子どもの自己および他者についての理解は、実際の母子の相互作用にどのような形で反映されたり、母子の相互作用からどのような影響を受けたりしているのだろうか。ここでは、相互作用における互惠性と母親の介入度の二つをとりあげ、子どもの自他の発動主体性に関する理解の発達との関連性について、以下の観点から検討する。

- (1) 自他の発動主体性について子どもが持っている知識の複雑さは、実際の母子の相互作用のどのような特徴と関連を有しているのか。
- (2) 母子相互作用のどのような特徴が、子どものその後の自他の発動主体性に関する知識の複雑さに関連しているのか。

#### 【方法】

被験者：男児 17 名、女児 10 名とその母親。

手続き：

1. 自他に関する発動主体性の理解の測定

24 カ月時、30 カ月時に測定。Pipp ら (1987) の手続きを一部改作したものを使用し、自己の発動主体性理解得点、母親についての発動主体性理解得点をそれぞれ算出した。

2. 母子の相互作用の観察

24 カ月時に実施。玩具（ままごと道具）を用いた、母子の自由遊びを 5 分間 VTR 録画。互惠性、母親の介入度を、10 秒間のタイムサンプリングにより以下のカテゴリに分類、得点化した。

#### 相互作用の互惠性の分類カテゴリ

- 1: 低互惠性（独立の活動に従事、相互作用はない）
- 2: 中互惠性（一方からのみの働きかけがある）
  - 2-1 子の活動に対し母親が傍観あるいはコメント
  - 2-2 母親の活動に対し子が傍観あるいはコメント
  - 2-3 相手からの指示・要請に応答しない
- 3: 高互惠性（活発な相互作用や共同活動あり）

#### 母親の介入度の分類カテゴリ

1. 無介入（見ているだけ）、2. 従属的介入（子の遊びに従った介入）、3. 発展的介入（子の遊びを持続、発展させるような介入）、4. 妨害的介入（子のその時の活動を妨害するような介入）

#### 【結果と考察】

##### (1) 24 カ月時の相互作用と 24 カ月時の発動主体性の理解との関連

① 互惠性との関連：低互惠性と母親の発動主体性 ( $r = -.37, p < .05$ )、および中互惠性のカテゴリ 2-3（相手からの指示・要請に対し応答しない）と、自己ならびに母親の発動主体性（順に  $r = -.48, p < .05$  ;  $r = -.51, p < .05$ ）との間に、それぞれ中程度の相関が認められた。

② 母親の介入度との関連：自己の発動主体性ではなく、母親の発動主体性との間にのみ関連が認められた（母親の発動主体性と、無介入 ( $r = -.45, p < .05$ )、従属的介入 ( $r = .40, p < .05$ )、妨害的介入 ( $r = -.33, p < .10$ ) との間に中～弱い相関）。

これより、遊び場面において互惠性の低さが相対的に目立つペアの子どもは、他者の発動主体性に関して相対的に単純な知識しか持っていないこと、また、自他の発動主体性について単純な知識しか有していない子どもは、遊び場面において母親からの介入（指示や要請）を無視しがちであることが伺える。さらに、母親の介入の程度が高過ぎも低過ぎもせず、子どもの活動に沿った適度な介入が多い場合に、子どもは他者の発動主体性についてより複雑な知識を持っていることが伺える。

##### (2) 24 カ月時の相互作用と 30 カ月時の発動主体性の理解との関連

① 互惠性との関連：中互惠性のカテゴリ 2-1（母親傍観、コメント）と自己の発動主体性との間にのみ、関連が認められた ( $r = -.37, p < .10$ )。

② 母親の介入度との関連：母親の発展的介入と、自己の発動主体性との間に関連が認められた ( $r = .36, p < .10$ )。

これより、子の活動に対し、母親は傍観あるいはコメントしているだけというやや一方的かつ消極的な相互作用のあり方は、子の後の自己の発動主体性の理解の低さを予測すると考えられる。また、子どもの活動を発展させるような母親の介入は、子の自己の発動主体性に関する知識の複雑さを高める方向に作用すると考えられる。